

医療統計サポート社 「風の庵」新聞

福岡市博多区
博多駅前
3丁目3-12
第6号 3Fビル7F
Tel 092-292-6639

日経
メディカル
掲載版

医療統計サポート事業でも FileMakerを駆使

2017年5月15日、風の庵について、日経メディカル電子版に取材を受けました。以下、日経メディカルの記事を抜粋して「風の庵」新聞としても掲載します。

日経メディカル（抜粋）

前田氏は、クリニック開業の2年前に医療統計学の実績を生かして、医療統計のサポートを行う「風の庵（かぜのあん）」を設立した。主な業務内容は、医学統計、生物統計を中心とした医療統計解析と、統計のためのデータマネジメント、FileMakerを用いたデータベースの構築、医療用ソフト開発などがある。また公衆衛生・疫学研究（社会医学）の視点から、予防医学を実践的により幅広くアプローチするために、今年になって、社会医学系専門医・指導医の資格も取得した。

「大学や大学に準じる

医療機関の勤務医は、医局や研究室が所有する統計解析システムや統計専門員のノウハウを用いて研究発表することができ、一般病院の勤務医や開業医は解析を相談する人が身近に存在しないことが多く、せっかくデータを収集しても、論文執筆に必要な統計解析を行うことが難しい環境にあるのが現状だ。そうした医師のために、医学的な視点から客観的・中立的に研究を把握した上で、医療統計学的な視点をを用いて、研究デザインおよび解析方法の草案・立案、査読者から戻された論文への対応など、論文がアクセプトされるまでの全過程を一貫してサポートできる会社を立ち上げた」（前田氏）と、設立の経緯を話す。

データマネジメントや解析にFileMakerを利用しているほか、

様々な医療系ソフトの開発にもFileMakerを用いている。例えば、臨床研究において、参加者をランダムに割り付けるためのランダム化ソフト（randomMS）など、臨床治験・解析をサポートするソフトを開発し、提供している。

また、一般のクリニックや小規模病院向けなどにも、臨床現場で役立つソフトを開発・提供している。生理検査や検体検査のデータを入力すると異常値や精密検査の必要を判定する機能などを実装した「健診くん」をはじめ、頸動脈や腹部超音波検査の報告書作成を支援するソフト、糖尿病患者にインスリンを処方する際の単位を簡単に計算するソフト、症例写真を簡単に管理するiPhoneアプリなどの開発も行い、各医療機関の要望に応じてカスタマイズ

健診くん

判定自動機能

図1は、健診くんの健画面を示しています。

検査所見、採血データ、心電図などのデータを入力した後に、自動判定ボタンを押すと、日本人間ドック学会に定められる判定区分を表示します。胸部レントゲンの所見は、手書きで追記するこ

とが可能です。結果は、PDFに出力されますので、保存も印刷も可能です。（図1には灰色のボタンがたくさん並んでいますが、出力する時には描画されません。）

2つ目の機能として、健診くんには、長時間労働における健診もできるようなって来ます。診断区分・就業区分、就業制限の設定も入力・選択できるように来るとなると、操作できます。

3つ目の機能は、在宅医療を行っていた経験を活かして在宅専用の健診・検査を作っています。在宅医療の現場では、現在の状態を把握することが大変で、その瞬間の対応に専念するあまり、1年間経過、2年目の経過など、年単位の経時的変化を把握する時間がありません。

定期的な検査を行うことで、内服による副作用が出ていないか、腎機能が低下が進んでいないかを把握することが出来ます。特に、現場で大事だと感じていたことは、「検査結果だけを渡すのではなく、検査結果をふまえた今後の方針を施設の担当者と話したり、家族への説明すること」もでき、結果の用紙が「形」として残ることで、患者家族の安心感が生まれ、医療機関とのより深い信頼関係を構築するツールとしても用いることが出来ました。

在子さん

カルテ書きを簡易に

在子さんは（図2）、在宅診療のカルテ書きを簡便に操作でき、かつもれなく記入するためのツ

ールとして開発した「在宅くん」の簡易版で、外来対応を充実させたアプリになります。新患外来（内科対応）では、SOAPが大事になります。所見・口腔、胸部、腹部の入力操作が簡単にできます。プランでは、内服薬・外用薬を選択することで自動で記載することが出来ます。生活習慣病患者では、特定疾患管理指導内容を記載しないといけません。このアプリでは、基本的な事項（主訴、バイタルなど）を入力後、特定疾患管理指導の「指導項目」を選択すると指導内容がランダムに表示されます。身長・体重・年齢・性別の入力で、必要な摂取カロリー量、理想体重、減量するための適切なカロリー量などを自動計算し、アセスメントに記載します。短時間・簡易な操作で、濃い内容の「カルテ記載」が作成されます。カルテ記載にかかった時間が、患者さんと関わる時間へ変えることができます。今までよりも対話や会話が弾むのではないのでしょうか。

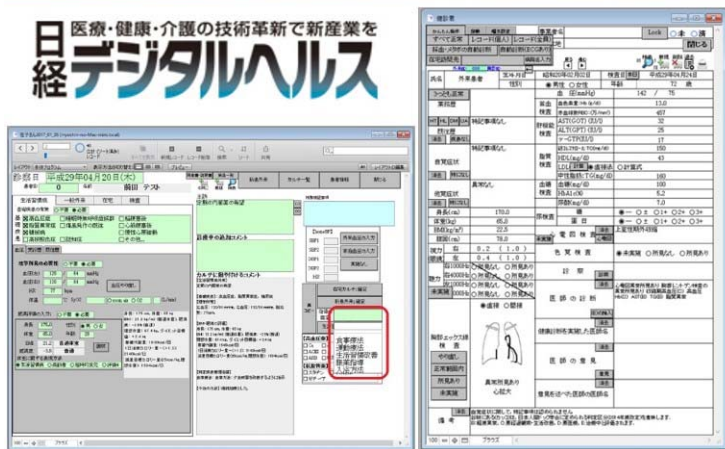


図2 在子さん

図1 健診くん

日経デジタルヘルス

医療・健康・介護の技術革新で新産業を